

市況予想レンジ

項目	時 期	予想	直近3ヵ月実績		
			9月～11月	6月	7月
長期国債10年物(%)		1.50 ～2.10	1.745 ～1.955	1.785 ～1.985	1.605 ～1.925
円ドル相場(円)		110 ～123	111.43 ～116.63	113.48 ～117.57	114.17 ～117.48
TOPIX(東証株価指数)(ポイント)		1,500 ～1,750	1,439.00 ～1,606.11	1,473.59 ～1,606.86	1,540.12 ～1,645.43

今後3ヵ月の市況見通しに月次の実績を記載しております。

当面の見通しと注目点

ファンダメンタルズ

(日本)

企業部門は、好調な企業業況感、高水準の企業収益を背景に設備投資は底堅く、懸念されているITの在庫調整についても比較的軽微なものにとどまるため生産も底堅く推移すると考えます。個人消費も生産の増加等を反映した所得環境の改善により堅調を維持するものと予想します。ただし、今後は米国景気の減速に伴う輸出の増勢が次第に鈍化するため、回復ペースも全体としては鈍化すると予想します。物価については、消費者物価コアは需給格差の改善などからプラスを維持するものと考えます。

(米国)

設備投資は底堅い動きが見込まれるものの、住宅投資および住宅市況のピークアウトや、これまでの継続的な利上げやガソリン高止まりにより、個人消費を中心に緩やかながら鈍化すると予測します。一方インフレについては、資源価格の上昇や一段のドル安による川上からのインフレ圧力と資源利用率の上昇から、コア物価指数にも当面上昇圧力がかかりますが、次第に住宅市場の減速傾向が帰属家賃の上昇圧力を緩和することなどから安定圏内での推移が続くと考えます。

株 式

(国内)

企業業績については、交易条件の悪化はあるものの生産予測指数等からみて、上期の決算発表に向けて上方修正期待により上昇する可能性が高く、一方、需給面でも外人の売りが一巡したことや高水準の信用残の整理が進んだことから、改善が進んでいます。ただし、米国のソフトランディングシナリオ(3%の成長持続、利上げ打ち止め、インフレ徐々に沈静化)はかなりの程度折込済みで、上方修正を考慮した1.8倍のPER水準には極端な割安感はなく、景気の本質が鈍化する中で、新規の買い材料に乏しく、上値も限定的と予想します。

(外国)

米インフレ懸念や景気減速懸念が急速に高まったことで株価は調整傾向となっていますが、ある程度織込まれたことから目先のには更なる下振れリスクは限定的だと考えます。ただし、住宅市況減速による個人消費への影響を見極めようとする動きが今後いっそう強まる点や、年後半にかけての企業業績においても高水準のエネルギー価格やこれまでの利上げによる影響が予想以上にネガティブに働く可能性もあり、当面株価の上昇も限定的と考えます。

債 券 ・ 為 替

(債券)

(日本) 長期金利は、金融政策の思惑により左右されやすい展開が続くものの、量的緩和前の水準を大きく下回ることは予想しにくく水準感から金利低下余地は限られる一方、米国の景気減速等により海外金利の上昇も見込みにくく、年内は物価の上昇も限られることから、上昇余地も限定的と考えます。

(米国) 金融政策については、FEDは、足許のインフレ懸念は残存するものの、利上げの累積的効果や住宅価格の騰勢鈍化を背景に景気減速が明確化するなか、当面、金利を据置く可能性が高いと考えます。一方、長期金利は、利上げ最終局面においては、景気遅行的に一時的にインフレ指標が上ぶれる可能性はあるものの、この場合でも追加利上げが意識される一方で長期金利の上昇は限定的であり、基本的には景気減速に伴い徐々にインフレ圧力が鈍化する中、緩やかに低下すると考えます。

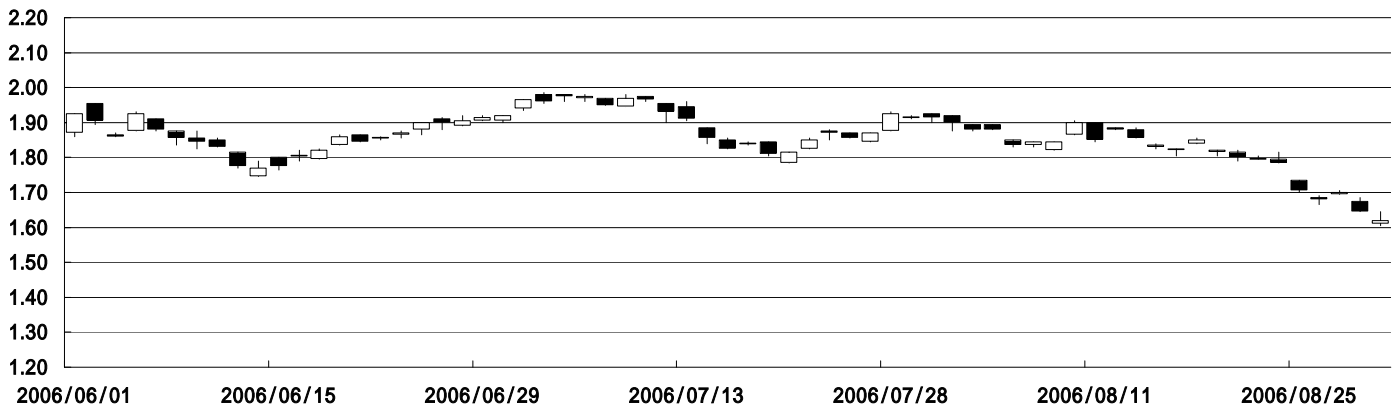
(為替)

シンガポールG7や米国中間選挙に向けて、対外不均衡への懸念に焦点が当たり、中国元に関する為替制度への言及に伴い、他のアジア通貨が水準調整をする中、前回G7以前の水準まで戻っている円について牽制が強まる可能性があり、これらへの思惑から振れやすい展開が続くと思われるものの、米国の経常赤字については、内需の減速、原油価格の低下を反映し、いったんスピード調整する可能性が高く、引き続き、日米の絶対的な金利差より日本からの対外投資は、個人中心に底堅い動きが見込まれます。このため、目先は円高へのリスクは高いものの、一方的な円高も考えにくく、現行水準での推移を予測します。

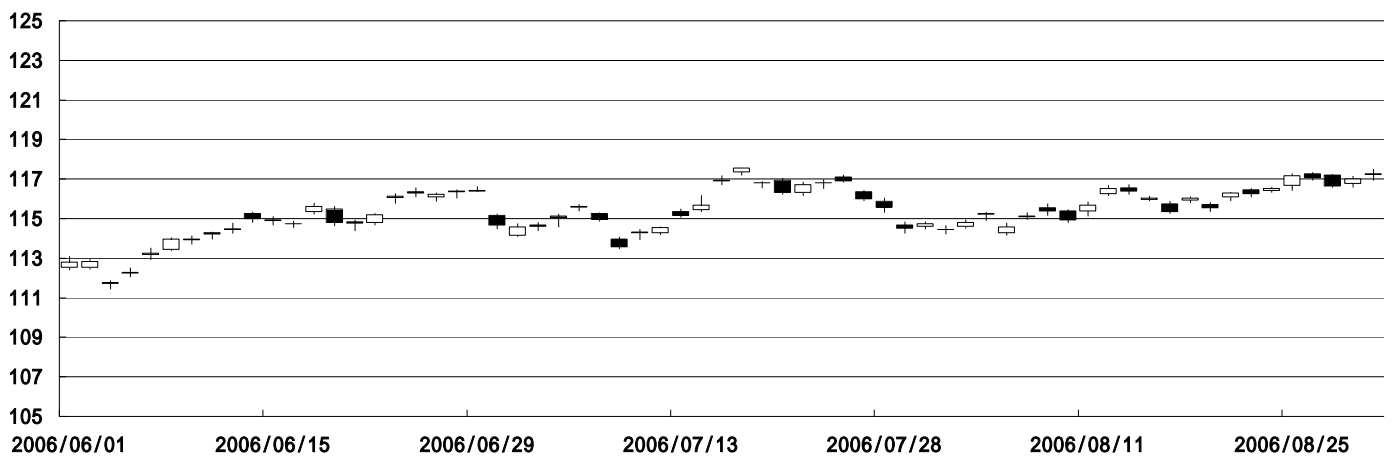
・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
 ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
 ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
 ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

市況の推移

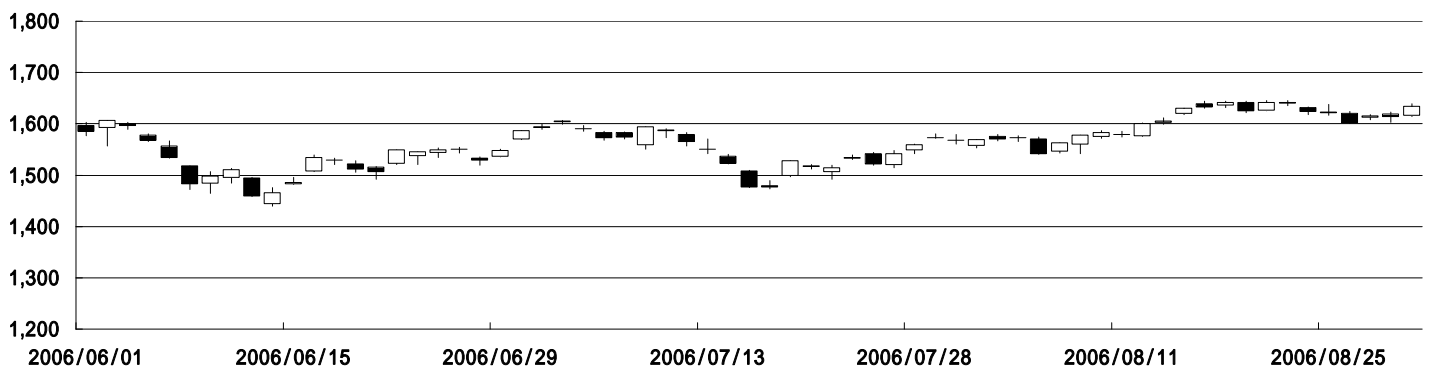
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



TOPIX(東証株価指数)



- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。